観光津和野

史跡と景勝地をたづねて

周遊指定地
小京都津和野

山陰の小京都といわれる津和野町は中国地方島根県の西南に位置し、古くから地方政経文化の中心として栄え現在に及んでいる。
人口六千余人、方一里の中心部は城下町として人家一千余戸がひしめき、町を縦貫する津和野川の清流をはさんで、東に青野山、西に城山がそびえ、景勝の地であると共に陰陽を結ぶJR山口線の中心にあって、バス網の重要基点にあり、今を去る約七百年の昔、開祖吉見頼行が封地されて以来吉見氏十四代、坂崎出羽守十六年、亀井藩主十一代の居城としていん盛を極めた土地である。
町の中心には殿町（堀割に泳ぐ鯉）、藩邸跡嘉楽園、鷺原公園の景勝地を初め、安野光雅美術館、森鷗外記念館、民俗資料館、郷土館といった美術館・資料館、文豪森鷗外旧宅、先哲西周旧居、キリシタン殉教史跡、やぶさめ馬場、坂崎出羽守墓所等五十指に余る史跡を有し、太鼓谷稲成神社、覚皇山永明寺、カトリック教会等地方信仰のメッカとしても知られている。また、鷺舞、津和野踊りといった無形文化財、温浴施設「津和野温泉なごみの里」、夏はホタルの里、酒と銘菓の町でもある。

青野山

海抜九〇八メートルの白山火山脈の終尾に当り、トロイデ式の休火山であって雄大にして壮麗なる形状は谷文晁の「名山図絵」に書かれたほど古来その美を謳われてきた、そのスロープは実に三万余坪で亀井時代の練兵場であったが、現在は好適なスキー場として冬はスキー客が、夏は涼を求める若者達のキャンプ場として賑わっている。

出羽守墓所

悲恋の城主坂崎出羽守はこの地に十六年あったが、この間に出丸の築城、市街の整理など多くの仕事を残している。

森鷗外先生旧址

医学博士、文学博士、鷗外の号をもって名高い、森林太郎先生は六才より藩校養老館に学び十一才の時上京明治十四年二十才で東大医学部卒業後陸軍々医に任ぜられた。明治十七年ドイツに留学すること五年、衛生学、文学、哲学美学を研究して帰朝、後累進して軍医総監となった。後に帝国博物館長、帝国美術院長等となった。
著作は明治二十三年創作「舞姫」以来晩年まで文豪の名に背かぬ幾多の名作があり多方面に亘る著述論作は尨大なものである。旧址には往事のままの旧宅が保存せられ庭園には鷗外遺書「うた日記」中のぼたんを刻んだ詩碑が建立されている。

マリア聖堂

長崎浦上村の切支丹信徒を改宗させるために幕府が津和野藩に預けた信徒は百五十三名これらは現津和野駅西方乙女峠の廃寺光琳寺に収容され明治六年帰国に至るまでに死に至った者もあった。
後に津和野教会神父パウロ・ネーベル氏の努力によってマリア堂が建立され殉教徒の霊を慰めている。故永井博士の絶筆「乙女峠」はこの間の事情を物語る史料である。

覚皇山永明寺

石見における曹洞宗の古刹で応永二十七年、吉見頼弘公創建せられ吉見、坂崎、亀井歴代の城主の菩提寺で往時は学校を設け雲水の養成につとめた。
境内には坂崎出羽守墓所、森鷗外墓所をはじめ有名な墳墓が多い。

太鼓谷稲成神社

津和野太鼓谷稲成神社は安永二年五月十五日、津和野城主亀井矩貞公が、三本松城の安穏鎮護と、住民の福祉多幸を祈願するため、城山の聖地太鼓谷の峯に勧請せられたのに始まる。祭神は宇迦之御魂神伊弉冉尊で俗に太鼓谷稲成といって崇敬者おびただしく神徳は霊験と共に衆人の渇仰するところである。
奉納せられた朱の鳥居がさながらトンネルの如く参道に建ち並んでいるのを見てもその盛んなことが偲ばれる。大祭は、二月初午、春の五月十五日、秋の十一月十五日、十六日で地方稀に見る祭典で、近郷近在はもち論、中国、四国、九州からも参詣者で賑わう。
境内には宝物殿、養老文庫、茶席半峰亭、通夜堂等の設備がある。

津和野城址

文部省の指定史蹟で、三本松城あるいは蕗城、たく吾城などと称し、文永、弘安の役の勲功として、西石見の追補使（地頭職）に任ぜられた吉見頼行公が永仁三年築城に着手したと伝えられている。
坂崎出羽守慶長五年入城後本城の北二〇〇メートルの山頂に織部丸と称する出丸の築城にかかり、以来明治七年の解城まで使用期間の長いこと曷の構築様式において全国稀に

嘉楽園

旧藩邸庭園の一部で初代養老館学頭山口景徳の名づけたものである。明治初年に藩邸解払後久しく荒廃したが、明治二十四年旧を慕う情切なるものがあって有志相謀って亀井茲監公の頌徳碑を建てると共に桜楓を植えて園を設けた。

郷土館

鎌倉末期以来の郷土史料、美術品、その他を陳列した県内唯一の歴史博物館である、収蔵品約一千点、文書記録その他貴重資料を蔵している。

家老多胡氏邸

亀井氏十一代に亘り其の行政の中心は家老職多胡氏であった。特に真武は鬼主水と呼ばれ殖産興業に力を尽し産業の基礎を築いた。真蔭は仮名手本忠臣蔵における加古川本蔵のモデルといわれ亀井茲親に仕えて功あり、幕末の真祇（逸斎）は画を谷文晁、桜間青崖に学んで逸作を残し、特に渡辺華山と親交あったことも有名である。

藩校養老館址

殿町の東側津和野川に沿った一角で、旧藩時代藩士の子弟を教育した所である。天明六年藩主八代の亀井矩賢公の創設にかかり明治五年まで国学、儒学、蘭学、医学、数学、兵学武芸一般を教え、藩文化の中心として人材輩出と共にその影響する所極めて大なるものがあった。

鷺原公園

鎌倉末期に吉見氏が、三本松城の守護として、鎌倉鶴岡八幡宮より勧請した八幡宮で、やぶさめ馬場もその形を残した横馬場として知られている。

町のセンター　殿町

カトリック教会、藩校養老館址、郡庁址、家老多胡氏邸表門等と多くの史蹟を有し、津和野大橋に通ずる殿町は町の観光センターとして景観を誇っているが、街頭に灯のともる頃の夜景は又格別である。
又、こゝの側溝には鯉の放流がしてあり六月には菖蒲の花が咲き乱れる。

津和野小唄

一、津和野恋しやあの娘の瞳
　夢を見るよな城下町
二、梅の花さく鷗外やしき
　のこる香りよ面影よ
三、鐘が鳴る鳴る十字（クルス）は光る
　鳥もきてなけマリア堂
四、いとし千姫坂崎出羽の
　墓に雪ふる永明寺
五、スキーかついで青野を下りゃ
　恋のヒュッテが君を待つ

鷺舞

国重文指定された鷺舞は天文十一年山口の祇園会鷺舞を移したのに始まり、正保元年亀井茲政公が京都祇園会から更めて伝習させて今日まで伝わったもので、当時の古式をそのまま残している全国でも数少ない神事であるこの舞は毎年郷社弥栄神社の祇園祭神事の際行われ、七月二十日・二十四日・二十七日の三日間舞う。
〝橋の上におりた、鳥は何ん鳥、かわささぎの、かわささぎの、ヤーかわささぎ
鷺が橋を渡いた、鷺が橋を渡いた時雨の雨に、ぬれとり鳥

西周先生旧宅

明治文化の功労者の一人として我が国哲学界の先駆者として知られている。先生は早く和漢洋の学に通じ、二十九才、津和野藩を脱藩後徳川幕府に仕えて蕃書取調所に入って幕命を受って

明治以後は西洋哲学を日本に紹介した。とりわけ学術語の整作は最も有名である。コント及びミルの実証主義による封建的旧幣打破と宗教と政治の分離は最も主張した。森鷗外と共に、文化人切手の中に収められた。

津和野踊

無形文化財に指定された津和野踊は今から三百四十年前、槍の名人で有名な亀井新十郎茲矩が旧領鳥取県鹿野から津和野へ来る時一緒に持ってきたと伝えられるもので、毎年八月十日山中鹿之介をまつる幸盛寺観音のお祭りの時踊り始められる。また八月十五日の夜は殿町で盛大に踊りの会が催される（その他本性寺の灯籠流しの時にも踊られている）この踊は念仏踊の一種で室町時代からの古い形を残しているもので学術的にも注目されている。